

長崎の一般的な町家は、格子や連子(れんじ)、裏の家へ続く小路などがある純和風木造住宅。京都などにある町家よりも間口が狭く奥に長いので、敷地の中に庭をつくって光や風通しを良くしていました。くんちの庭見せて使われる「見せの間」があるのも長崎らしい造りのひとつ。2階の連子(窓に取り付けられた腰掛けできる手すり)から、くんちの庭先回りを楽しんでいたようです。